

人生を拓いてくれた「珠玉の言葉」1981年

1981.4.10 われら何を掴むか（障害者の手記）より

- ・ そんなに好意ばかりに甘んじてはいけません。せつかく人間として生れて来た以上、社会の一員として自分は一体何ができるのか、何の為に生きているのかと、言うことを、障害者であるからこそ、よけい慎重に考え、行動していかなければならないと思うのです。（脳性小児マヒの男性）
- ・ ぼくは身障者こそが、社会の中で一番辛さんをなめて生きている人たちだと考えます。
- ・ 力いっぱい生きてます
- ・ 私は現在の一時間、きょうの一日を大切に充実させて過ごしています（起立歩行不能 一級 車椅子不能）
- ・ 幸い私には現在絵を描いたり、川柳を作ったり、自分自身で心から打ち込めるものを持っており、しあわせに思っています。（起立歩行不能 一級 車椅子不能）
- ・ 病身が育ててくれた不屈心
- ・ 病む身でも 心に虹を かけて生き
- ・ 人生は一度だけです。たった一度だけです。これからも私は絵を描き、川柳を作り、出来る限りのことに生命を燃やして、自分自身を本当に生かしくりたいと思います。生命ある限り・・・。
- ・ 泣き 笑える 素晴らしさ！
- ・ 「目が見えなくて、よくこれ程のことを」と言われて、「私は目が見えないからこそと考えます」。
- ・ 生まれつき、あるいは病気で、また事故で、障害を持つ人々は、体力が少なかったり、身体的には辛いことが多いだろうと思う。だが、それを、不幸とのみ決めることを、誰がして良いのか。生きていても・・・と他の人が考えてはならぬ、と私は思う。身体に障害があるが故に、あるからこそ、生命をいと愛しみ、精神の炎を燃やして生きているのだ。
- ・ 人を羨ましがらず、人を恨まず、必要以上の劣等感を持たず、自分を苦しめないこと。自分にも何かをやる可能性があるのだと信ずることが大切だと思います。

1981.4.30 ぐうたら人間学より

- ・ 人間の一生で一番、生きるのがむづかしいのは老年です。若い時や壮年時代は失敗しても社会が許してくれます。まだ役に立つからです。しかし役に立たなくなり、顔も体も醜くなった老年には世間は許してくれません。その時、どう美しく生きるか、今から考えておきなさい。

1981.6.1

- ・ 人に喜ばせんと思うよりは、まず己よるこぶべし。己さへよるこべば人は自らよるこぶなり。(蓮如上人)
- ・ 「あの友達は自分のことを良く理解しない」

自分の方が相手を十分理解していないのではないか？

1981.11.8 金屋小学校あしなみより(手話講習会を考えた時に)

- ・ 低学年の特性は、余りに考慮されず、入学したばかりの一年生に対しても日課表に従って「国語の時間ですよ・次は理科の時間ですよ・次は・・・」。幼稚園は幼児にふさわしい総合保育を受けて来た。小学校に入ると、一足飛びに教科別の時間割に従って進行する授業になってしまう。
- ・ 発達段階に即し、子供達が興味と感心を持って、楽しく学ぶことのできる学習をさせたい。
- ・ 子供は本来的に活動を好み、その活動の中で新しい知識や考え方を身につけていくものである。
- ・ 総合的な学習活動は、子供たちが、自分をとりまく自然や人、ものなどに積極的に、能動的にはたらきかけて行く活動に主軸をおき、体験的な活動を通して学ばせようとするものである。
- ・ 教科や教材が先あって、それに子供をあてはめて教育して行こうというものではない。
- ・ 子供たちの日々の生活の中に教科のねらいが達成できる活動を見出し、それを教材として組織し、学習を展開して行こうとするものである。
- ・ 次々と活動が発展して行くことのできるものが、最も望ましい姿である。
- ・ 具体的な対象に能動的にはたらきかけていくことにより、学ぶことの基本的な態度を育て、確かな経験の累積をはかるとともに、創造性や気力を培い、自己啓発する力をつけたいというものである。
- ・ 具体的な活動を通して、まわりの人達との触れ合いを図り、人間関係をも深めて行きたいと願う。
- ・ 物質的な豊かさと、情報過多の中にあって、受身的になり、一方的に集約された知識を身につけて行くことが多くなっている。一つの知識を得るまでの過程が欠落することは、人として大切なものを思う心が失われて行く原因をつくることになる。
- ・ ただ漫然と見たり、触れたりしているだけでは、幹肌のガサガサしたポプラの木の本当の姿をとらえることはできない。
- ・ 子供達が自分をとりまく人々との人間的な触れ合いを求めていることなどから・・・。

- ・ 子供達が今、何に、どのようにかかわっているか、何に興味・感心・欲求・願いなどを持っているか知るために「このごろ気づいたこと、見つけたこと」を発表させたり、日記や遊びなどからそれを読みとることに努めている。
- ・ 学習の教材になると判断したとき、その素材がみんなの願いまでに高まるように醸成する場を設けて、学習を組み立てるようにしている。
- ・ しかし、教師の願いが子供の活動の中にどうしても現れないことは、いくらでもあることである。この場合、子供の活動の中に、わたしたちの願いが醸し出されるような場を構成したり、材料を提供したりして、わたしたちの願いと子供の活動との出会いを求めて、学習を構成することになっている。